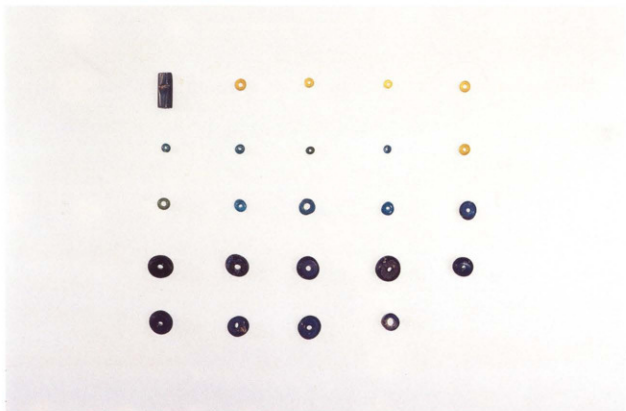


# 町代3号墳・町代遺跡

満濃町天神地区団体営ほ場整備事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告

1999年3月

満濃町教育委員会



第1図 町代3号墳出土玉類



第2図 町代3号墳出土耳環

## はじめに

このたび、町代遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。昨年に引き続いて、天神地区は場整備事業に伴う発掘調査の報告書であります。

町域には、約50基の古墳が確認されておりますが、今回発掘調査が実施された古墳は、その中のひとつである町代2号墳周辺の調査でした。これまでも、安造田古墳をはじめ数基の古墳の発掘が実施されております。

調査の結果、新たに古墳が確認されたのをはじめ、須恵器・鉄製品・耳飾り等多数の出土物がありました。これらの調査によって、まだ極々僅かですが、湊濃町の貴重な遺跡が明らかになりつつあります。

今後とも、文化財の保護保存と開発との調和をはかり、多くの方々に町内の貴重な文化財について理解していただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際しましてご理解とご協力をいただいた関係者の皆様  
に心から感謝申し上げます。

平成11年3月

湊濃町教育委員会

教育長 近藤健二

## 例 言

- 1、本書は、平成10年度に実施した香川県仲多度郡満濃町大字長尾小字上田1925に所在する「町代遺跡・町代3号墳」の発掘調査報告書である。

なお、町代遺跡については平成8年度から3カ年にわたって継続して調査したものであり、今回の調査中発見した古墳については遺跡台帳にも登録されていない古墳であったことから新たに「町代3号墳」と命名したものである。

- 2、調査は、満濃町教育委員会が調査主体となり、片桐 節子が調査担当者として実施した。

- 3、調査は、平成10年7月1日から同年8月29日（実働50日）の期間で実施した。

- 4、調査及び報告書作成にあたっては、以下の方々の御指導・御協力を得た。記して謝意を表したい

田村 久雄 西尾 明美 片桐 孝浩 山坂浩樹 蔵本 晋司 大久保 徹也  
大林 英雄 笹川龍一 東 信男

四国工業試験場

社団法人仲善広域シルバー人材センター

- 5、本書の執筆・編集は、片桐が行った。

- 6、本書で使用した方位は、国土座標系第IV系の北を、また、水平基準の数値は標高を表す。挿図の縮尺は、図面内にスケールで表示した。

- 7、本書で使用した遺跡略号は、以下のとおりである。

S B・・・掘立柱建物	S K・・・土坑
S P・・・柱穴	S D・・・溝



## 目 次

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	調査の結果	3
	I区	3
	II区	6
	III区	12
	町代3号墳	12
第3章	まとめ	28

## 挿 図 目 次

第1図	満濃町位置図	第18図	3号墳玄室礎床(下層)検出状況 及び遺物出土状況
第2図	調査区位置図	第19図	3号墳排水溝検出状況
第3図	I区遺構配置図	第20図	3号墳石室完損状況
第4図	SD-101~105出土遺物実測図	第21図	3号墳周濠平面図及び土層断面図
第5図	I区柱穴内出土遺物実測図	第22図	3号墳石室内出土遺物実測図(1)
第6図	II区(上層)遺構配置図	第23図	3号墳石室内出土遺物実測図(2)
第7図	II区上層柱穴内出土土器実測図	第24図	3号墳出土装飾品実測図
第8図	II区上層包含層・精査時出土土器実測図	第25図	3号墳出土鉄製品実測図(1)
第9図	II区下層遺構配置図	第26図	3号墳出土鉄製品実測図(2)
第10図	SB-201平・断面図	第27図	3号墳周濠内出土遺物実測図
第11図	II区下層柱穴内出土遺物実測図	第28図	3号墳周辺出土遺物実測図
第12図	町代2号墳周濠平面図及び土層断面図	第29図	III区内出土遺物実測図
第13図	町代2号墳周濠内出土遺物実測図	第30図	町代遺跡内出土石器実測図
第14図	町代2号墳周濠内出土鉄製品実測図	第31図	3号墳周濠及び下層遺構平面
第15図	3号墳玄室(礎床上層)遺物出土状況	第32図	3号墳下層遺構検出状況
第16図	町代3号墳石室全体図	第33図	満濃町内古墳位置図
第17図	3号墳玄室礎床(中層)検出状況	第34図	満濃町内出土遺物実測図

## 図 版 目 次

### 巻頭図版

- 第1図 町代3号墳出土玉類  
第2図 町代3号墳出土耳環
- 図版1 第1図 I区遺構検出状況(東方向から)  
第2図 I区SD-105検出状況(東方向から)
- 図版2 第1図 I区SD-105検出状況近(南西方向から)  
第2図 I区SD-105検出状況近景(東方向から)
- 図版3 第1図 I区SD-105検出状況近景(東方向から)  
第2図 I区SD-105内遺物出土状況(南方向から)
- 図版4 第1図 I区SD-105内遺物出土状況(東方向から)  
第2図 I区SD-105内遺物出土状況(東方向から)
- 図版5 第1図 II区上層遺構検出状況(東方向から)  
第2図 II区下層遺構検出状況(東方向から)
- 図版6 第1図 II区SP-01内遺物出土状況(西方向から)  
第2図 II区SP-01内遺物出土状況(西方向から)
- 図版7 第1図 町代2号墳周濠内円筒埴輪出土状況(北方向から)  
第2図 町代2号墳周濠内鉄製品出土状況(東方向から)
- 図版8 第1図 II区上層遺構SD-201焼土塊検出状況(東方向から)  
第2図 II区上層遺構SD-201焼土塊検出状況(南方向から)
- 図版9 第1図 町代3号墳石室全景(西方向から)  
第2図 町代3号墳石室近景(西方向から)
- 図版10 第1図 町代3号墳玄室上層礫床検出状況(西方向から)  
第2図 町代3号墳玄室中層礫床検出状況(西方向から)
- 図版11 第1図 町代3号墳玄室中層礫床検出状況(西方向から)  
第2図 町代3号墳玄室上層礫床中遺物出土状況(南方向から)
- 図版12 第1図 町代3号墳玄室上層礫床中遺物出土状況(南方向から)  
第2図 町代3号墳玄室下層礫床中遺物出土状況(南方向から)
- 図版13 第1図 町代3号墳玄室下層礫床中遺物出土状況(南方向から)  
第2図 町代3号墳羨道遺物出土状況(南方向から)
- 図版14 第1図 町代3号墳羨道遺物出土状況(東方向から)  
第2図 町代3号墳周濠土層断面(西方向から)
- 図版15 第1図 町代3号墳境石検出状況(西方向から)  
第2図 町代3号墳境石除去後検出状況(真上から)
- 図版16 第1図 町代3号墳羨道から玄室(西方向から)  
第2図 町代3号墳玄室完掘状況(西方向から)

- 図版17 I区溝内・II区内上層柱穴内出土遺物  
図版18 II区上層柱穴・II区包含層・II区下層柱穴・町代3号墳出土遺物  
図版19 町代3号墳出土遺物  
図版20 町代3号墳出土遺物  
図版21 町代3号墳・町代3号墳周辺出土遺物  
図版22 町代3号墳・町代2号墳周濠内出土遺物  
図版23 町代3号墳出土遺物X線写真  
図版24 町代3号墳出土遺物X線写真  
図版25 町代3号墳出土遺物X線写真  
図版26 町代3号墳出土遺物X線写真  
図版27 町代3号墳出土遺物X線写真  
図版28 町代3号墳出土遺物X線写真  
図版29 町代3号墳出土遺物X線写真

## 第1章 調査に至る経緯

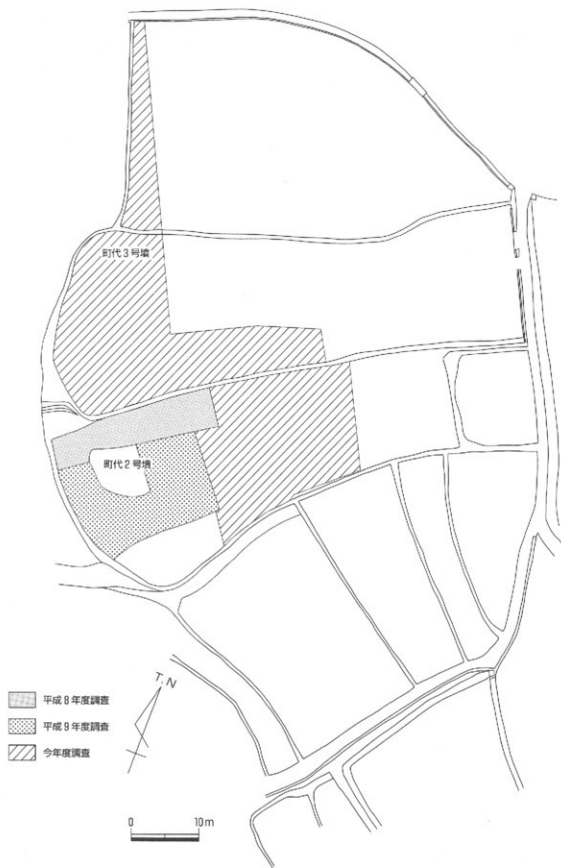
香川県仲多度郡満濃町長尾地区においては、平成5年から農業基盤整備事業の開発が計画され、それに伴う埋蔵文化財の調査も継続的に実施されてきた。平成6年12月5日から同年12月14日までの期間で、香川県教育委員会文化行政課の指導のもと、多度津町教育委員会の協力を得て実施した確認調査の結果を受けて、平成7年度は、所謂段の塚穴型の石室形態を持つ櫻林清源寺1号墳・調査中偶然発見された同2号墳・町内でも数少ない竪穴式石室のセツ塚7号墳が調査された。平成8年度は町代2号墳（周濠部分のみ）・弥生時代中期と古代・中世の集落址である町代遺跡、平成9年度は前年に引き続いて町代2号墳・町代遺跡・北山楠神社塚古墳（古墳北側の一部と現開口部の南側）の調査を行ってきた。

今年度実施した対象地は平成8・9年度に実施した調査区の北側に広がるほ場で、平成9年12月15日から1日の期間で県文化行政課が実施した確認調査の結果、町代遺跡が広がることが確認されたため調査することに至ったものである。

調査は、重機で表土掘削を行い、その後は人力により遺構検出に努めた。調査区Ⅱ区では表土下中世の遺構面が検出され調査後に更に下層の地山面までを重機により掘削した。Ⅲ区では重機による表土除去中古墳を検出した。今までその存在を知られていなかった古墳であったため新たに「町代3号墳」と命名して調査を行った。



第1図 満濃町位置図



第2図 調査区位置図

## 第2章 調査の結果

今年度の調査は、前年度に実施した調査対象地の東に広がるほ場と北に広がるほ場で、対象面積は1162㎡である。調査区は南から任意でⅠ・Ⅱ・Ⅲ区と呼称する。

Ⅰ区は平成9年度に実施した調査区の同一ほ場内の東側に位置し、農業基盤整備事業の対象となったものである。ここは、耕土直下黄褐色粘質の地山に至る。Ⅱ区は前年度対象地の北側のほ場に位置し、ほ場面は約40cm高い。従って、ほ場開拓時の削平が大きくなく、耕土直下で灰褐色粘質土の中世遺構物が検出できた。Ⅲ区はⅡ区の更に北側に位置し、Ⅱ区の同一ほ場と更に北に広がるほ場をⅢ区とした。2枚ほ場の高さは同様であったが、調査の結果北に広がるほ場は、ほ場形成時の盛土が認められた。

### Ⅰ区

後世の削平のため、耕土直下黄褐色粘質の地山面でも多くの柱穴や石組遺構、溝を検出した。

この調査区は北部は東西にほぼ同一面を持つが、南部の溝検出面辺りから南に向かって緩く傾斜している。ただし、東部の柱穴検出面では傾斜は認められなかった。

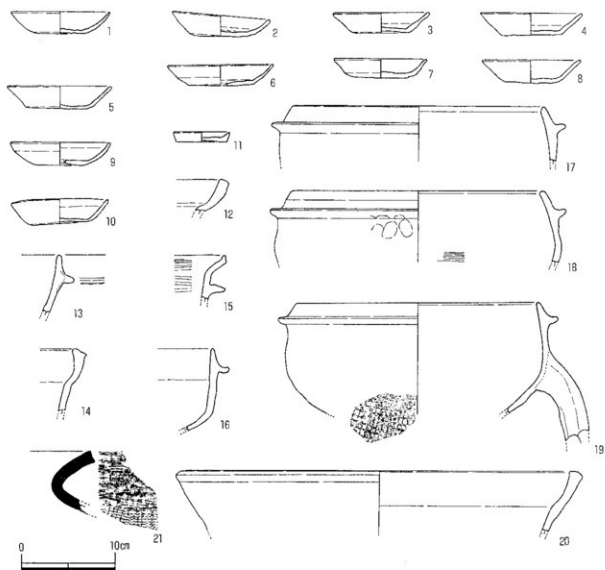
石組遺構(SD-105)は調査区の南西部で検出した。平面形態は南北に長いタツノオトシゴのような形を呈しており、その頭と胴のくびれ部あたりで機能的にも二つに別れているようである。石組は崩壊が認められるものの、西側に組まれていたようで、乱雑ではあるが多いところで2～3段程度組み上げている。使用石材は砂岩で、その大きさは一定でない。さらに、胴部と脚部の境辺りはあたかも古墳の境石のように大きな砂岩の石材を石組に対して直行方向に設置している。頭部と胴部の境、胴部と脚部の境で東からSD-101・102が流れ込み、南方向に流れていたようであるが、その後は削平のため不明である。SD-102の南で検出した東西に流れるSD-103は、ほぼSD-102に平行した後南に屈曲し更に西に流れた後再び南に屈曲して流れる。SD-104はSD-105の西部で検出したが、これらとは別に独立したもののようである。溝5本の埋土は茶褐色粘質土を呈していた。遺物はどの溝からも出土したが、SD-105からは完形あるいはそれに近いものが多く出土した。また、出土遺物に時期差は認められないことから、これらは同時期に機能したものと考えられる。SD-105は石組の性格が明確でないが、遺構に直交する石材の位置からSD-101・102の溝の水の給排水を目的としたものであろう。出土遺物は土器が多く、坏・土鍋・土釜等が出土した。

Ⅰは包含層出土の土器・坏である。内外面をロクロナデシ、底部はヘラキリする。内面にマンガンが付着する。2～10は土器・坏である。3と8は内外面をロクロナデ、底部は糸切りし、板状痕が残る。10は底部ヘラキリであるが、板状痕が認められる。2はSD-102出土のものである。3～10はSD-105出土である。11は小皿である。底部から口縁部を積み上げただけのつくりで、底部をヘラキリしている。12・14・20は土鍋である。屈曲部上面以下に煤が付着する。14はSD-101の北、遺構に伴わないで出土したものである。13・15～19は土釜である。全て体部外面の鈹部以下に煤が付着する。19は脚部以下に格子目叩きが認められる、21は須恵器・甕である。外面口縁部端と体部に格子目タキが残る。瓦質である。亀山焼。11～13、16～21はSD-105出土のものである。

15はSD-102出土のもので、10～11世紀のものと考えられるが、これ以外は全て14世紀のもので



第3图 I区遺構配置図



第4図 SD-101~105出土遺物実測図

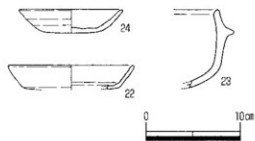
ある。

柱穴は黄褐色粘質の地山面上で検出した。埋土には前年度の調査同様、灰褐色粘質土と茶褐色粘質土、青灰色粘質土がみられた。しかしながら、遺物はほとんど出土していない。

22・23はSP-301出土のものである。22は土師器・皿である。全体にナデ。23は土師器・土釜である。鈿以下に煤が付着している。24はSP-311出土の土師器・坏である。内面と外面をナデ、底部をヘラキリする。

溝と同様、14世紀のものである。

SP-306からは、柱痕を確認した。



第5図 I区柱穴内出土遺物実測図



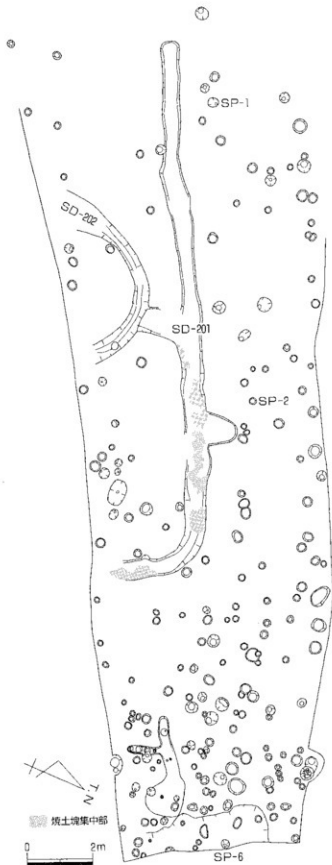
## II区

今年度調査区の中央部に位置する。南に位置するI区より約40cm程度高いほ場である。耕土直下は灰褐色粘質土の遺構面があらわれた(上層)。調査後、重機により黄褐色粘質土の地山面まで掘り下げ下層遺構の検出に努めた(下層)。

上層では、溝状遺構と多数の柱穴、土坑を検出した。調査区ほぼ中央部を東西に延びる溝(SD-201)と、その南に位置しSD-201の中央辺りで接続し、弧状を呈して延びるSD-202を検出した。SD-201は、現存長約15m、幅約0.5~0.8m、現存深は約3~15cmを計り、西側ほど残存状況は不良である。東西に延びた溝は、東端で南へ弧状に屈曲して南のほ場に延びるが、畦畔以南は削平を受ける。また、ほぼ中央部でも南に屈曲するが、SD-202に接続している。溝内からは赤褐色を呈した焼土塊が部分的に集中して充填していた。大きさは拳大程度のもので、その他遺物は土師器の細片が出土したのみである。

削平の為上部構造については不明であるが、色調からは比較的低温度での焼成と考えられ、溝状遺構であることから上部構造の存在は疑問である。また、溝としてもその性格は不明である。

SD-202は弧状を呈しており、現存長約5.8m、幅約0.4~0.9m、現存深約0.2mを計る。両端とも南側のほ場で削平を受けているが、推定すると楕円形を呈するようである。埋土からは焼土塊は全く認められず、土師器片・



第6図 II区(上層)遺構配置図

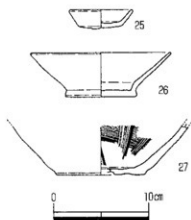
須恵器片・サヌカイト片が出土したのみである。

柱穴は、調査区東部で集中して検出したものの、掘立柱建物址としては確認しえなかった。埋土には、灰褐色粘質土と茶褐色粘質土が認められた。

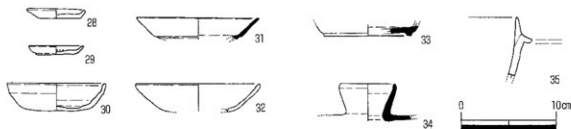
遺物が出土した柱穴は非常に少ない。25はSP-01出土の土師器・小皿である。調整は摩滅の為不明であるが、底部はヘラキリし、口縁部の一部に煤の付着が認められる。完存。26は土師器・椀である。非常に精良な胎土を持ち、底部から直線的に外方に伸び、端部は丸く終わる。完存であるが摩滅の為調整は不明。10世紀のものである。27はSP-06出土の土師器・摺り鉢である。外面はナデ、内面はハケメを施し6条の条痕が認められる。15もしくは16世紀のものである。

28～35は遺構検出時の精査及び包含層出土の遺物である。

28・29は土師器・小皿である。底部をヘラキリする。13世紀後半から14世紀前半のものである。30は土師器・坏である。内面はナデ。31は須恵器・はその口縁部である。波状文が巡る。7世紀のものである。32は土師器・坏である。全体をナデ。12世紀。33は須恵器・椀である。ロクロナデが認められる。8世紀のものである。34は須恵器・提瓶である。7世紀のものである。口縁部内面に淡緑色の自然釉が付着する。35はSD-201から出土した土師器・土釜である。外面鈔以下に煤の付着が認められる。13世紀後半14世紀前半のものである。



第7図 II区上層柱穴内出土土器実測図



第8図 II区上層包含層・精査出土土器実測図

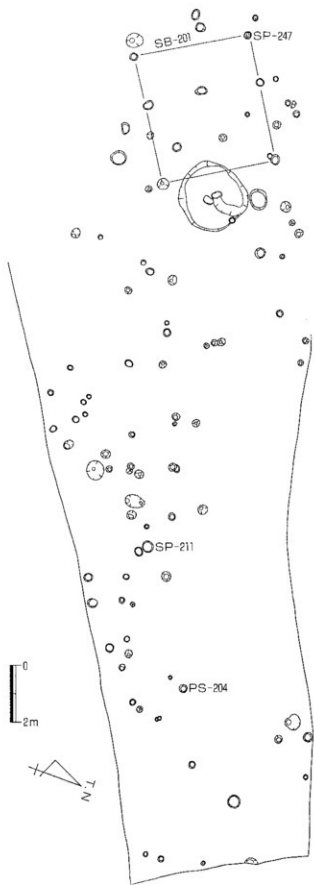
Ⅱ区下層では、柱穴・土坑を検出した。S  
B-201は調査区西端で検出した梁間1  
間×桁行2間(420cm×460cm)の掘立柱建  
物址である。柱穴規模は約30~40cm、柱穴  
間距離は約180cm、現存深は10~32cmを計る。  
柱穴内(SP-247)からは37の土師器  
・小皿が出土した。根石の上層から出土し  
たもので底部をヘラキリする。その他の柱  
穴からも土師器・土鍋等が出土した。埋土  
の色調は淡褐色色を呈しており出土遺物等  
から14世紀のものと考えられる。

その他、多くの柱穴から土師器片・須恵器  
片・サヌカイト等遺物が出土したが細片が  
多い。

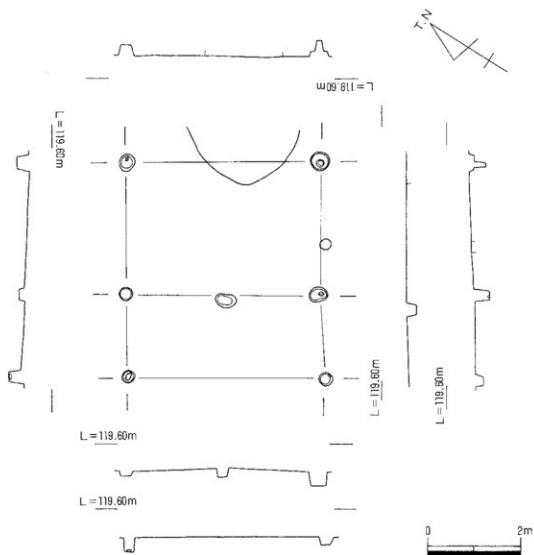
36・39はSP-211から出土したもので  
ある。36は著しく摩滅しているが、弥生土  
器・高坏脚部である。39は磨り石である。  
弥生時代のものと思われる。

38はSP-204出土の土師器・小皿であ  
る。内外面ともナデ、底部はヘラキリ。ロ  
ク回回転方向は時計回り。14世紀のも  
のである。

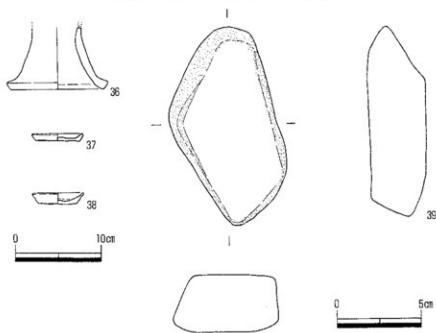
埋土の色調は調査区西部は、淡褐色色粘質、  
灰褐色粘質が多く、東部は青灰色粘質、灰  
褐色粘質が認められた。また、焼土塊が出  
土した柱穴も認められる。



第9図 Ⅱ区下層遺物配置図



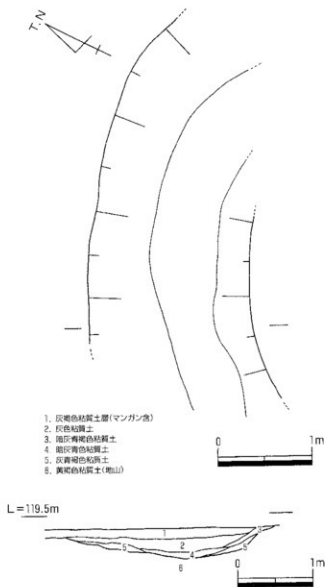
第10图 SB-201平·断面图



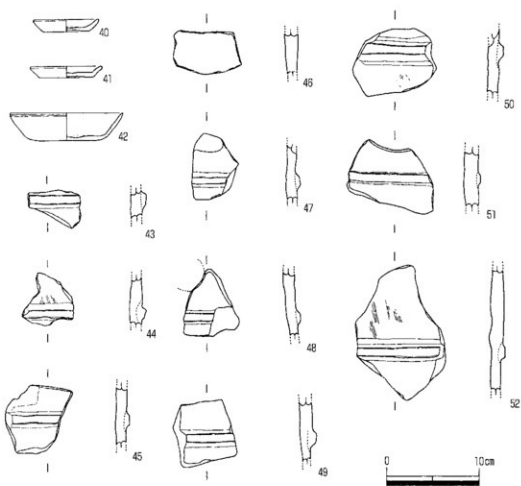
第11图 II区下層柱穴内出土遺物実測图

調査区西端で、町代2号墳の周濠の一部を検出した。現存幅約1.75m、最深約0.33mを計る。今年度の調査により町代2号墳は円墳であることが確定した。周濠内からは、土師器・小皿や坏、円筒埴輪片が出土した。

40・41は土師器・小皿である。42は土師器・坏である。内外面ともナデ、底部をヘラキリする。いずれも14世紀のものであろう。43～52は円筒埴輪片である。床面直上で集中的に出土した。ほとんど摩滅するが、極一部で一次調整のハケメを看取できる。48は円形透孔が認められる。これらは前年度出土したものの同様、タガの突出が弱いこと、二次調整を欠くことなどの特徴を有しており、川西編年V期のものである。また、床面より若干上層で鉄製品(53)が出土した。鉄刀と思われる。土層観察から、中世にはこの周濠は埋没していたことが確認し得た。



第12図 町代2号墳周濠平面図  
及び土層断面図



第13图 町代2号墳周濠内出土遺物実測図



第14图 町代2号墳周濠内出土鉄製品

### Ⅲ区

Ⅱ区調査区の北に位置し、同一のほ場とさらに北のほ場が対象である。

中機による表土掘削中に奥壁と側壁の一部を確認したものである。この古墳は満濃町遺跡台帳にも確認されていなかったものであるため新しく町代3号墳と命名して調査を進めた。

奥壁・側壁で囲まれた範囲内では人頭大の礫や小礫、遺物を多く検出し、さらに、天井石や側壁と思われる石材も確認した。これらを除去したところ、床ほぼ一面に炭と遺物を確認することができた。

#### 町代3号墳

中世の居住面の炭や攪乱部を除去したところ、一部住居時の攪乱を受けたところがあったものの古墳床面礫床部を検出した。羨道部にも攪乱は認められたものの古墳の全容が明らかになった。石室全長約8.2m、玄室長約3.75m、奥壁側幅1.95m、羨道部側幅1.85m、羨道長約4.45m、幅約1.45～1.5mを計る両袖式の横穴式石室である。石室中央やや羨道寄りに、石室に直交して平坦な面を持つ砂岩が敷き詰められていたが、これは2面目の礫床が露出したものである。石室を構築している石材は基底石もしくはその上2～3段程度しか確認し得なかったが、奥壁は花崗岩の一枚岩、北側壁は1石の花崗岩と砂岩、南側壁は2枚の花崗岩で基底石としている。基底石上は砂岩で構築している。玄門立柱は両側とも花崗岩を立てて設置しており、羨道部は北側壁が花崗岩1石、南側壁は花崗岩2石を設置しており、その羨門部側は人頭大程度の砂岩を基底石としている。基底石の使用石材の変化について、羨道部の再構築が考えられるが、周濠、石室掘り方にはその気配は認められないことから、築造当初からこのように構築されていたものと考えられる。羨道と玄室の境には安山岩の境石を使用していた。

玄室では3層の礫床が確認された。

上層は中世に攪乱を受けたため多少の攪乱が認められるが、玄室一面に小礫を敷き詰めており、少量の遺物が出土した。これらも攪乱を受け、原位置を留めているものは少ない。

中層は平坦な面を持つ人頭大の大礫を敷いているが、これもやはり石室中央部で攪乱を受けている。西半側が欠落するのは、もともと敷き詰めていなかった可能性も考えられる。

下層は上層よりやや小振りの小礫を使用しているが、中央部分では住居時の炉跡の攪乱を受けている。西半側は調査時に除去したものである。ここは一次埋葬を実施した面と考えられ、追葬の際、中層・上層と床面を再構築したものであろう。遺物は少量出土しているが、玉類等はほとんどこの礫床面もしくは礫床除去中から出土している。その出土位置から埋葬主体は石室に直交して設置されていた可能性が高い。

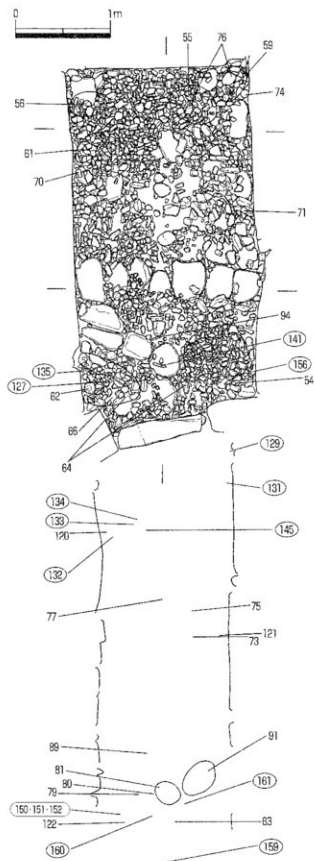
下層の礫床を除去すると、基底石に沿って全周する排水溝を確認した。玄室内は玄門部まで石蓋を施し羨道部先端にまで延びていた。

羨道部は玄室に比べて幅が広く造られており、埋土中から豊富な鉄製品や耳環、玉類、土器類などが出土したが、羨道部埋葬が行われた痕跡は検出できなかった。

54～94は石室内出土遺物である。

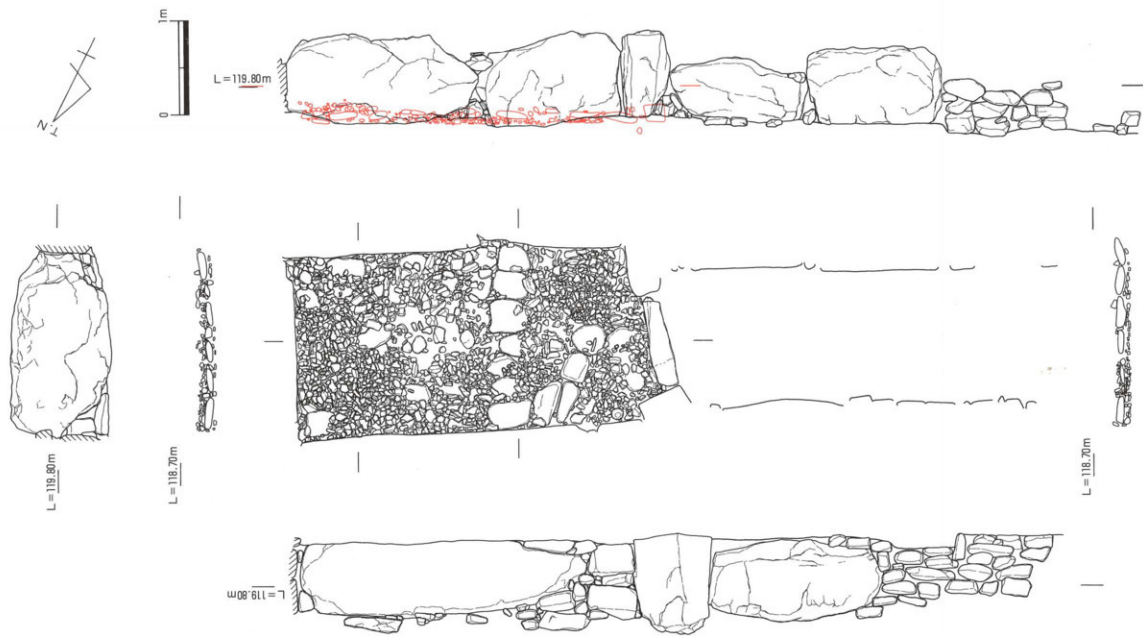
54～58は須恵器・灰蓋である。55・56・58は全体をロクロナデシ、天井部にヘラケズリが認められる。ロクロナデシの回転方向は時計回りである。上層礫床出土のものと礫床除去中に採集したものが接合した。56は

羨道部出土のものである。59～67は須恵器・  
 坏身である。59は上層礫層中から出土したも  
 ので、全体をロクロナデし、底部を時計回り  
 でヘラケズりする。内面に有機物が付着して  
 いる。59～62、78～80までは玄室内から、62  
 ・67は羨道部から出土した。68・69は短頸壺  
 蓋である。68は上層礫層中から出土した。完形。  
 全体をロクロナデし、天井部はヘラケズりす  
 る。69は下層礫層から出土した。全体をロク  
 ロナデ、天井部を逆時計回りでヘラケズりし、  
 中心部はヘラキリが残る。完形。70は小型壺  
 である。全体をロクロナデし、底部を時計回  
 りでヘラケズりする。口縁部から体部上半に  
 淡緑色の自然釉が付着している。口縁部の一  
 部を欠損するが、ほぼ完存。上層礫層中から  
 出土した。71は小型短頸壺である。上層礫層  
 中から出土した。口縁部から体部上半に緑色  
 の自然釉が付着している。完存。72～76は高  
 坏である。73は上層礫層中から、76は上層礫  
 層中と羨道部から出土したものが接合したも  
 のである以外は、羨道部出土のものである。  
 76は長脚の脚部に上下二段に透孔があるが、  
 下段は台形、上段は線刻状のもので各2ヶ所  
 認められる。77ははそうである。口縁部は欠  
 損する。羨道部出土。78は玄室、羨道部から  
 出土したもので須恵器・長頸壺である。口縁  
 部を欠損するが、内面及び外面体部上半はロ  
 クロナデ、体部下半は時計回りのヘラケズリ  
 が認められる。底部にはどっしりとした断面  
 台形の高台がつく。79は羨道部出土の平瓶で  
 ある。床面よりやや上位から出土したが、完  
 存である。全体をロクロナデ、底部は静止  
 ヘラケズりする。80は羨道部及び周濠内から  
 出土したもので、提瓶である。  
 81は須恵器・大型甕である。体部外面はタタ  
 キ、内面に青灰波紋が認められる。長くのび  
 る口縁部は刺突による斜線文が3段施されて  
 いる。攪乱を受けた際の遺物であったと思わ

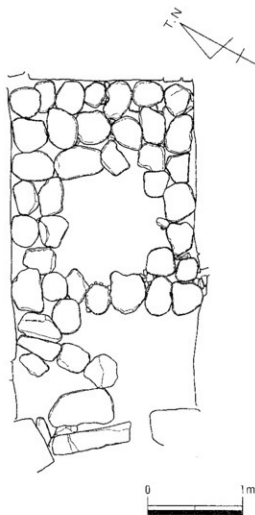


第15図 3号墳玄室（礫床上層）遺物出土状況

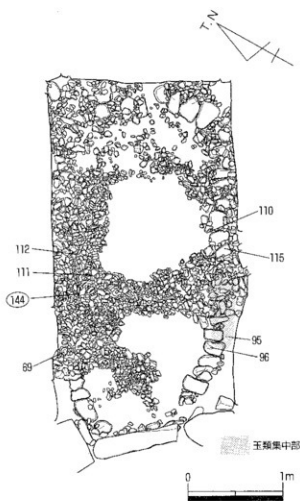




第16図 町代3号墳石室全体図



第17図 3号墳玄室礎床（中層）検出状況

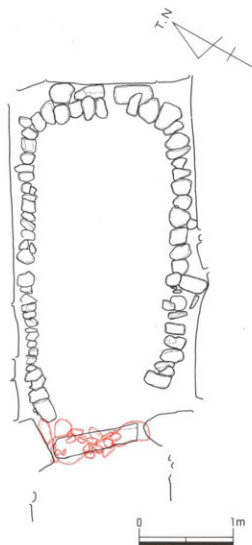


第18図 3号墳玄室礎床（下層）検出状況  
及び遺物出土状況

れる。82は土師器・小皿である。83は淡灰緑色の透明釉がかかった口売げの皿である。13世紀後半14世紀前半のものである。83は羨道から出土した土師器・坏である。85・88は和泉産の瓦器である。13世紀前半のものである。58は羨道出土の土師器・坏である。13世紀のものである。87は玄室出土の土師器・椀である。89は羨道出土の鍋である。90は内面に砂目を持った陶器である。17世紀前半のものである。91は羨道出土の須恵器・壺である。9世紀末から10世紀のものである。92は器種不明。93は内耳鍋である。16世紀。94は片口の摺鉢である。条痕は6条で、13ヶ所認められる。玄室内と古墳南で検出した石集中箇所から出土したものが接合した。その他、銅の塊も出土したが、X線の結果、銅銭であることが判明した。5枚程度が接着しており分離・判読は不可能であった。

床面では石を炉状に配している部分も確認でき、出土遺物や炭の存在等から中世頃住居として使用されていたものと思われる。この時期以降、石室は破壊されほ場と化したのであろう。

また、石室内からは装飾品として管玉・小玉・粟玉・耳環等が出土した。玉類は全て玄室内、特に南壁

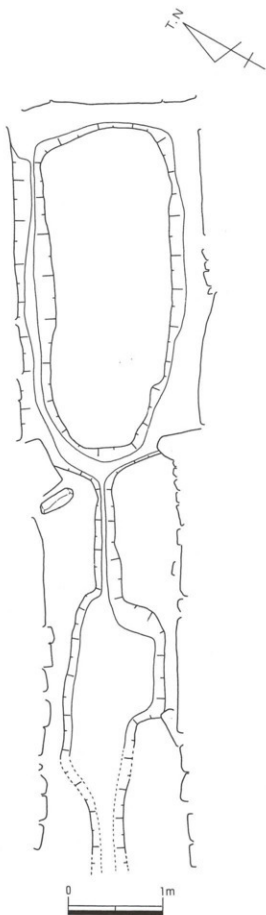


第19図 3号墳排水溝検出状況

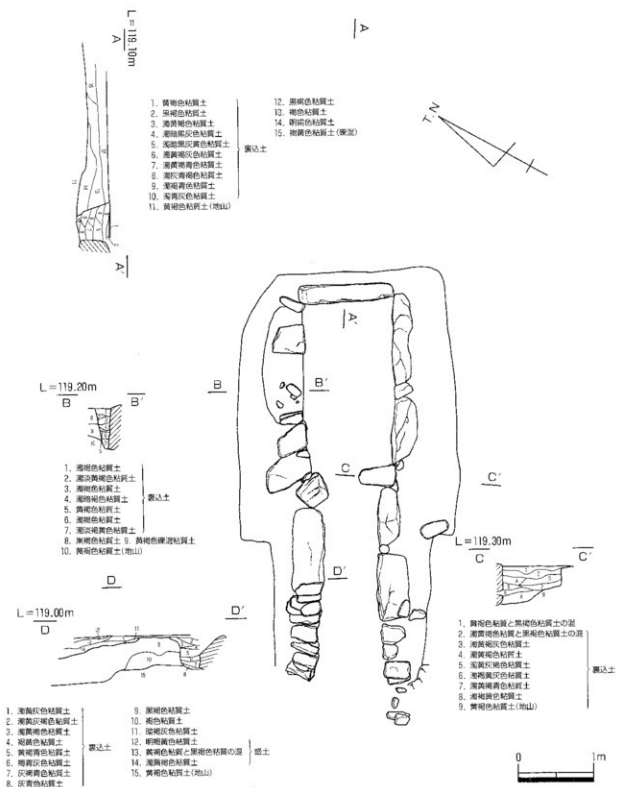
玄門部付近から出土した。粟玉の色調は水色・黄色・淡緑色・黄緑色とバラエティーに富んでおり、小玉は紺色もしくは紫紺色を呈している。耳環は120・121・122が羨道から、119と123が玄室内から計5点出土した。119～121は銅芯銀張のもので多くは剥がれるが、119は完存である。122・123は他のものと比べてやや大型であるが、中空のものである。

その他、町代3号墳内からは非常に多彩な鉄製品が出土した。自然状態で取り上げたまま鉄の塊状のものも多い。

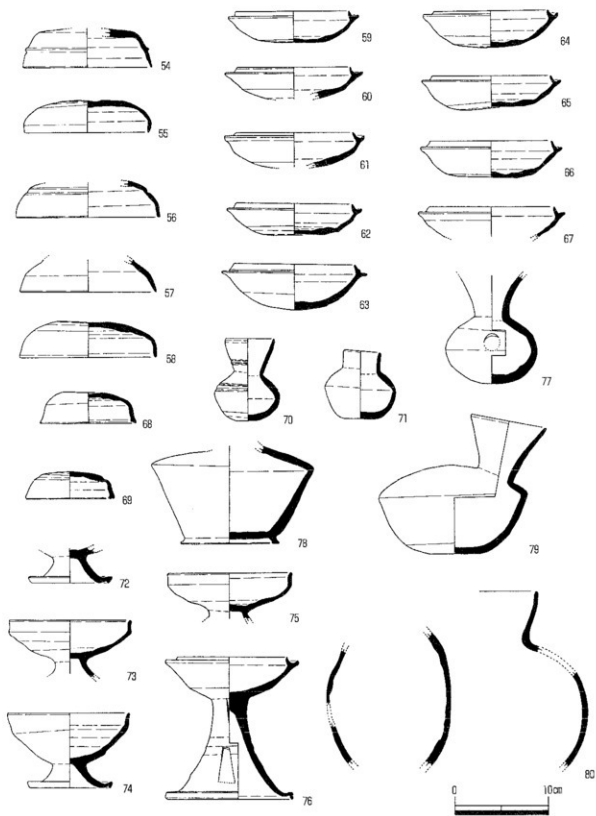
126～135は鉄鎌である。126～128は鎌身外形が長三角を呈したもので、127は鎌身関部に至る線



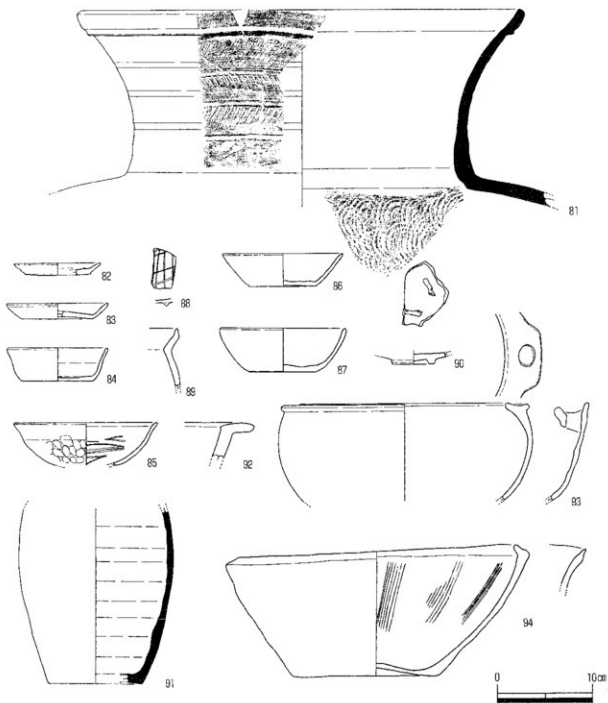
第20図 3号墳石室完掘状況



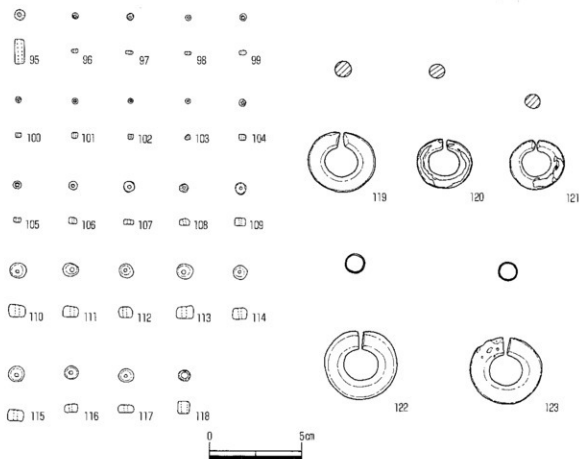
第21图 3号墳周濠平面図及び上層断面図



第22图 3号填石室内出土文物实测图(1)



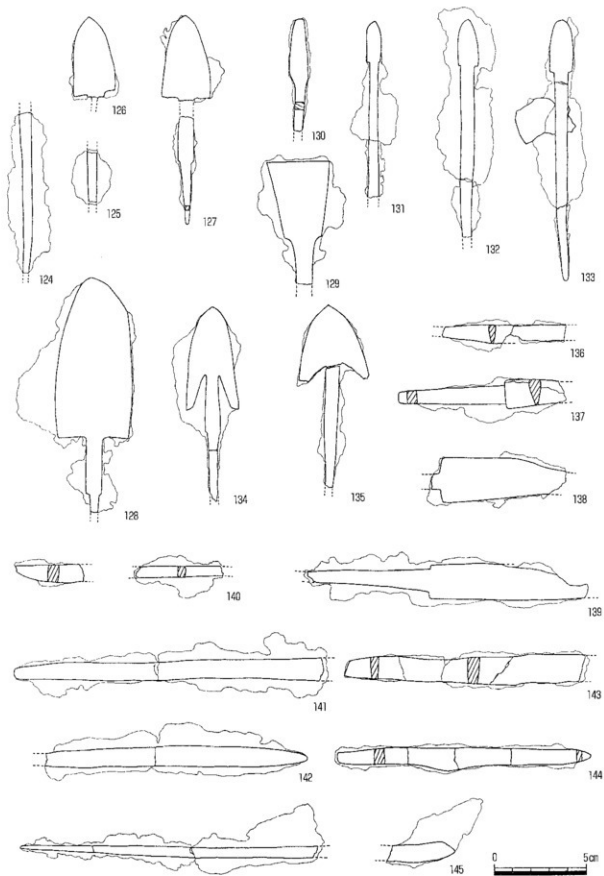
第23图 3号墳石室内出土遺物実測図(2)



第24図 3号墳出土装飾品実測図

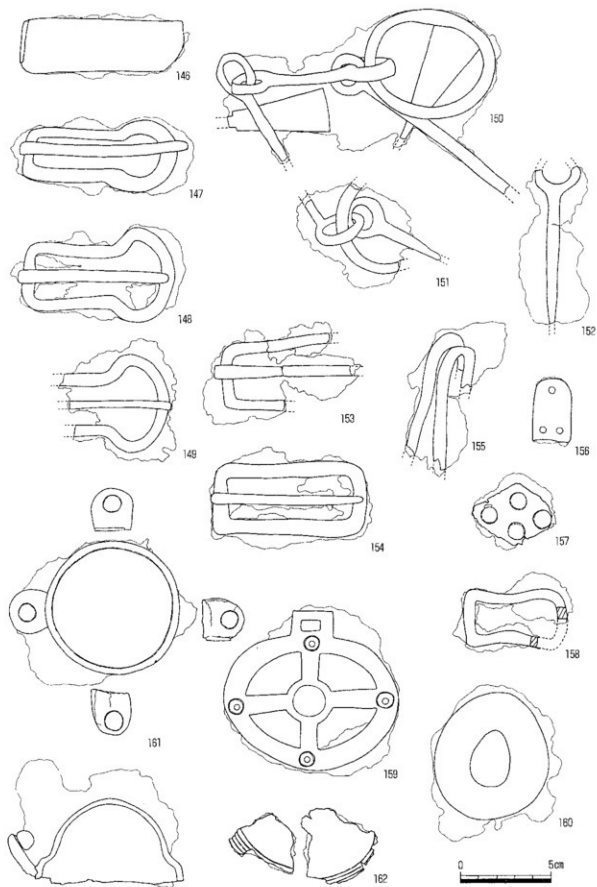
が内彎し、127・128は直線状のものである。128は大型である。129は鎌身外形が方頭形を呈している。130は鎌身部が細長で、鎌身関部へは斜関で続くものである。131～133は鎌身外形が柳葉形で鎌身関部へは直線で続く。133は別個体の鉄製品が付着している。134・135は鎌身外形が腸袂の逆刺のものである。136～139は小刀と思われる。いずれも破損している。140～145は鉞である。140については木質痕が認められる。146は鎌である。玄室最上層の炭部分から出土した。147～149はか具である。148は半壊するが、147・148は完存である。いずれも形状が馬蹄形を呈しており、3点とも輪金の一辺に棒状の刺金を摺める形式である。150は轡と鎌身外形が方頭形を呈した鉄鎌2本が鉄塊状態で出土した。151・152も轡である。155は半壊するが、兵庫鎖と思われる。153と154はその留金であろう。153は半壊。156は断面は非常に薄く3ヶ所の円形孔が認められる。157は4ヶ所の鉾が認められる。159は楕円形を呈した鏡板である。4ヶ所に鉾が認められる。160は平面卵形を呈し、断面も非常に薄いものである。161・162は辻金具である。161は塊状で出土しており、接続部の金具は衝撃を受けたらしく3点は引きちぎれ1点も歪んでいる。いずれも金銅製のものである。

163～168は周濠内出土の遺物である。周濠は古墳東と南側で確認し得たのみで全周しない。163は土師器・坏である。外面に煤が付着する。164は須恵器・坏蓋である。全体をロクロナデする。165は須恵器・壺である。全体をロクロナデしており、外面口縁部から体部にかけて緑色の自然釉が付着する。166は須恵器・甕である。口縁部内外面をロクロナデし、体部外面は平行タタキ、内面は青海波文が残る。

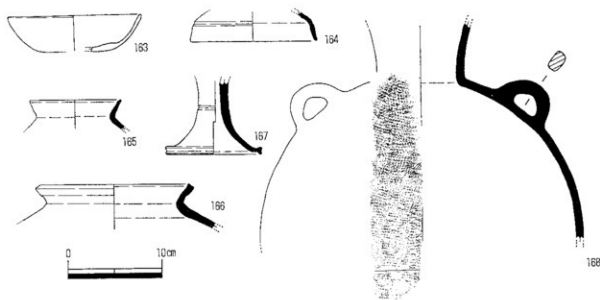


第25图 3号墳出土鉄製品実測図(1)



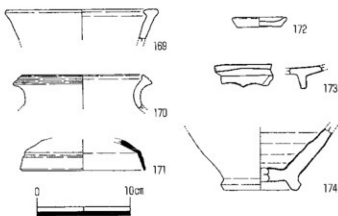


第26图 3号埧内出土铁製品実測图(2)



第27図 3号墳周濠内出土遺物実測図

167は須恵器・高坏脚部である。沈線で区切られた上段に線刻状の透孔を2ヶ所有する。168は比較的大型の提瓶である。口縁部を欠損するが、外面体部に2ヶ所把手を持ち、内面は青海波文、外面はタタキの後、縦方向のナデを施す。169～174は墳丘及び石室西側の西側ほ場との境の石組部分から出土したものである。169は器種不明であるが内面はナデを施している。170は口縁端部に2条もしくは3条の凹線文を持つ壺形土器である。弥生時代中期のものと思われる。171は石組内から出土した須恵



第28図 3号墳周辺出土遺物実測図

器・坏蓋である。全体をロクロナデする。172は土師器・小皿である。底部はヘラキリする。173は胎胎陶器である。内面及び外面高台部分にまで施軸する。18世紀のものである。174は石組内から出土した白磁・四耳壺である。12～13世紀のものである。

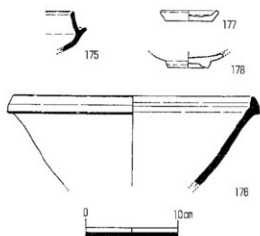
その他Ⅲ区からは耕土直下で柱穴が検出された。色調は多くが灰褐色であったが、柱穴内から遺物は出土しなかった。また、墳丘下層地山上下でも柱穴・土坑が確認された。色調は淡褐色を呈していたが、

やはり、遺物は出土しなかった。

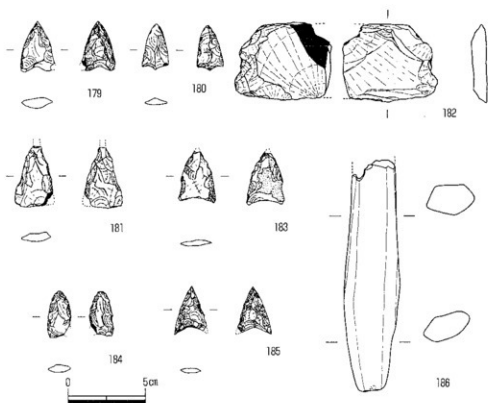
175～178は耕土直下から出土したものである。175は須恵器・坏身である。全体をロクロナデする。立ち上がりが高くしっかりしており、6世紀半ば頃のものと思われる。176は須恵器・こね鉢である。全体をロクロナデする。13世紀後半から14世紀前半のものである。177は土師器・小皿である。底部をハラキリする。176とほぼ同時期のものである。178は濁緑色の釉を施釉した陶器である。内面に蛇の目軸剥ぎが認められる。18世紀のものである。

今年度調査区内からは少量の石器が出土した。

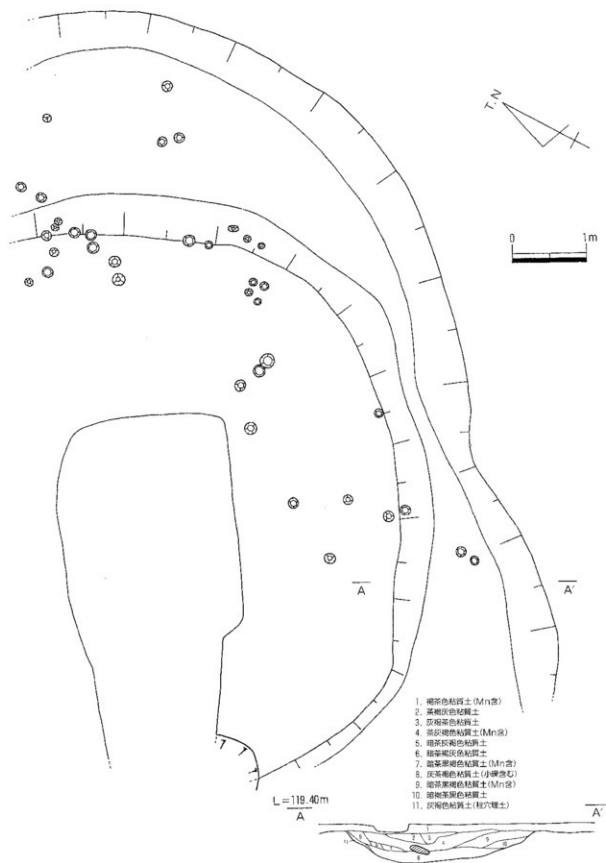
179～182はⅡ区から出土したものである。全てサヌカイト製である。179・180・181は石鎌で、SD-202の内側から出土した。182はSD-202から出土した石包丁である。挟りを持つ。183～186はⅢ区内出土である。183と185は石室西側の石組内から出土した石鎌である。184は表探である。186は町代3号墳周濠内から出土したもので、先端部に敲打痕が認められる。石材質不明。



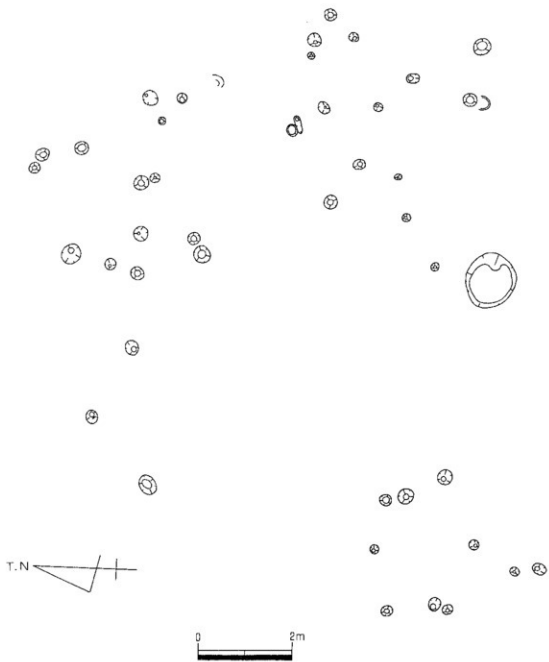
第29図 Ⅲ区内出土遺物実測図



第30図 町代遺跡内出土石器実測図



第31图 3号墳周濠及び下層遺構平面図



第32图 3号墳下層遺構検出状況

## まとめ

前前年、前年に引き続いての調査の結果、町代遺跡の北への広がりが確認できたわけであるが、新たに古墳1基を確認することができた。この古墳内からは中世頃、住居として使用されていた痕跡が見つかっており、この町代3号墳と2号墳の周濠の埋没状況からこの周辺は中世頃に集落として開発されていたようである。その頃はまだ3号墳の石室は開口していたようで、その後江戸時代初期前後頃石室を破壊しては場にしていった状況が伺われる。

2号墳は前年度からの調査により径約16mの円墳で、その出土遺物から6世紀前半頃の築造と考えられるが、今年度検出した3号墳は径約10mの円墳で出土遺物から2号墳より遅れて6世紀末頃の築造と考えられる。石室内は中世頃住居として使用された際の擾乱のため、埋葬面としては明確にできないものの下層で小礫を敷詰め1次の埋葬を行ない、さらに追葬の際、平坦な面を持つ人頭大程度の砂岩で中層を敷き、下層よりやや大きめの小礫で上層を形成したようである。玄室規模は長さ3.75m、幅1.85～1.95mと目を引く規模ではないが、石室内からは金銅製の辻金具を含む豊富な鉄製品が出土した。馬具の多くは羨道から出土しているが、原位置を保っているとは考えがたい。香川県内で辻金具・鏡板が共に伴って出上っている古墳は、丸亀市青ノ山6号墳・善通寺市王墓山古墳・観音寺市長佐古4号墳である。青ノ山6号墳は6世紀中葉築造の横穴式石室を持った円墳、王墓山古墳は6世紀中葉築造の横穴式石室を持った前方後円墳、長佐古4号墳は6世紀後半築造の横穴式石室を持った円墳である。その他辻金具だけ出上したのは大野原町緑塚10号墳の1遺跡、鏡板だけ出土している古墳は大川町大井七つ塚4号墳第2主体、同じく第4主体、高松市夕陽ヶ丘団地古墳、綾南町浦山4号墳、観音寺市上母神4号墳、黒島林13号墳、鎌子塚古墳の7遺跡を数える。

溝瀧町内では現在までのところ、51基の古墳が確認されており、今回の調査で明らかになった町代3号墳を含めると52基になったわけである。

その中では、安造田東3号墳や櫻林清源寺1・2号墳・天神七ツ塚7号墳のように調査を実施した古墳もあるが、工事中偶然発見されたものもある。今回は下地古墳・浦山古墳と町代2号墳出土遺物と伝えられる遺物を紹介する。

浦山古墳は町代1号墳と北山楠神社塚古墳の中間くらいに位置し、昭和6年、ほ場開墾中に破壊されたという。その際、出土した遺物が187～190である。これらで見ると、6世紀後半頃のものであろう。

下地古墳は下地神社の裏に立地する古墳で、明治時代は梅畑であったが、昭和60年農道工事に偶然羨道部が発見された。その際出土したものが191～194である。やはり、6世紀後半頃であろう。

196～197は出土地不明である。下地古墳・浦山古墳とほぼ同時期と考えてよいと思われる。

198は町代2号墳内から出土したと伝えられるものである。非常に精良な胎土を持ち、薄手で丁寧に造られており、6世紀前半の所産と思われる。

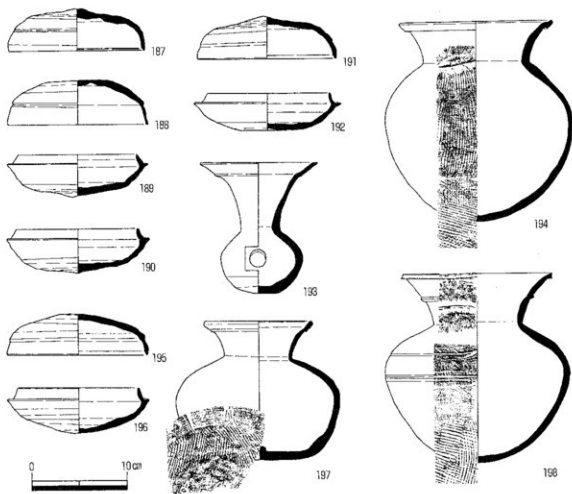
溝瀧町内の古墳としては中期と考えられる公文山古墳や天神七ツ塚古墳が知られるが、その多くは後期古墳である。これらの中には、『複室構造』を持った安造田神社前古墳や『一墳丘二石室』の佐岡古墳、『断の塚穴型』の石室構造を持った断頭古墳と櫻林清源寺1号墳、日本初のモザイク玉を保有していた安造田東3号墳など独特の特徴を持った古墳が多く認められる。今回の町代3号墳も特に注目され



第33図 満濃町内古墳位置図

- |             |              |              |              |
|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 公文山1～6号墳 | 14. 安造田東3号墳  | 27. 町代3号墳    | 40. 櫻林山の神古墳  |
| 2. 富熊神社南古墳  | 15. 安造田神社裏古墳 | 28. 北山神社塚古墳  | 41. 吉田神社前1号墳 |
| 3. 草塚古墳     | 16. 安造田神社前古墳 | 29. 北山墓地1号墳  | 42. 吉田神社前2号墳 |
| 4. 西山西部1号墳  | 17. 佐岡1号墳    | 30. 北山墓地2号墳  | 43. 三境山1号墳   |
| 5. 西山西部2号墳  | 18. 佐岡2号墳    | 31. 天神ヒツ塚1号墳 | 44. 三境山2号墳   |
| 6. 西山西部3号墳  | 19. 下王地古墳墳   | 32. 天神ヒツ塚2号墳 | 45. 三境山3号墳   |
| 7. 出雲山1号墳   | 20. 断頭墓地1号墳  | 33. 天神ヒツ塚3号墳 | 46. 三境山4号墳   |
| 8. 出雲山2号墳   | 21. 断頭墓地2号墳  | 34. 天神ヒツ塚4号墳 | 47. 三境山5号墳   |
| 9. 出雲山3号墳   | 22. 光明寺池上古墳  | 35. 天神ヒツ塚5号墳 | 48. 椿谷古墳     |
| 10. 出雲山4号墳  | 23. 天神塚古墳    | 36. 天神ヒツ塚6号墳 | 49. 南泉寺1号墳   |
| 11. 安造田東峠古墳 | 24. 瀬山古墳     | 37. 天神ヒツ塚7号墳 | 50. 南泉寺2号墳   |
| 12. 安造田東1号墳 | 25. 町代1号墳    | 38. 櫻林清源寺1号墳 | 51. 南泉寺3号墳   |
| 13. 安造田東2号墳 | 26. 町代2号墳    | 39. 櫻林清源寺2号墳 | 52. 小山古墳     |

うる古墳でなかったが、貴重な鉄製品を保有しており、これら古墳を造営した集団に非常に興味もたれるところである。



第34図 満濃町内出土遺物実測図



遺物 番号	出土遺構	器 種 名	法量 (cm)			色 調	胎 土	焼 成	調整・手法上の特徴・備考
			口 径	器 高	底 径				
1	包含層	須・坏	10.3	2.4	4.8	白褐色	2m下の磁胎	普通	全体にナデ。内面に有機物付着。
2	SD-102	須・坏	10.3	3.3	5.8	灰褐色 内:黒褐色	磁胎	普通	内外面ともナデ。底部はヘラキリ。内面にマンガン付着。
3	SD-105	須・坏	10.2	2.2	5.3	灰褐色 内:黒褐色	磁胎	普通	底部は糸切り。板状痕有。
4	SD-105	須・坏	10.7	3.4	6.3	淡褐色	磁胎	普通	底部はヘラキリ。
5	SD-105	須・坏	10.95	3.4	7.3	淡褐色	9m下の磁胎	良港	全体にロクロナデ。底部はヘラキリ。ロクロナデ方向は逆時計回り。
6	SD-105	須・坏	11.2	3.3	7.0	黒褐色	磁胎	普通	摩滅の為調整不明。
7	SD-105	須・坏	9.6	2.1	5.8	褐色	磁胎	普通	全体にロクロナデ。底部はヘラキリ。ロクロナデ方向は逆時計回り。
8	SD-105	須・坏	10.35	2.5	5.6	黒褐色	磁胎	普通	全体にロクロナデ。内面底部はナデ、外面底部は逆時計回りの回転糸切り。
9		須・坏	10.4	2.45	6.2	黒褐色	2m下の磁胎	普通	内面はロクロナデ。外面は摩滅の為調整不明。
10	SD-105	須・坏	10.1	2.7	6.6	黒褐色	磁胎	普通	摩滅の為調整不明。外面底部はヘラキリ。板状痕残る。
11	SD-105	須・皿	5.9	1.1	5.4	黒褐色	磁胎	普通	摩滅の為調整不明。外面底部はヘラキリ
12	SD-105	土・土鍋				黒褐色	磁胎	普通	内面ロクロナデ。外面に煤付着。
13	SD-105	土・土釜				黒褐色	1m下の磁胎	普通	内外面ともロクロナデ。外面口以下に煤付着。
14	SDA	土・土鍋				褐色	磁胎	普通	内外面ともロクロナデ。外面に煤付着。
15	SD-	土・土鍋				黒褐色	磁胎	普通	内面はハケム。
16	SD-105	土・土釜				黒褐色	磁胎	普通	内面はロクロナデ。外面口以下に煤付着

遺物 番号	出土遺構	器種名	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	調整・手法上の特徴・備考
			口径	器高	底径				
17	SD-105	土・土釜	26.6			緑色	1面下の厚胎	普通	内面と外面両上はロクロナデ。外面鈎以下に煤付着。
18	SD-105	土・土釜	26.4			外:緑色 内:緑色	厚胎	普通	内面と外面両上はロクロナデ。内面の一部に横方向のハケス。外面鈎部は指押さえ。
19	SD-105	土・土釜	25.6			緑色	厚胎多胎	普通	内面はロクロナデ。外面鈎以下に煤・有機物付着。外面体部は格子目タタキ。
20	SD-105	土・土鍋	41.2			緑色	厚胎多胎	普通	内面はロクロナデ。外面に煤付着。
21	SD-105	須・甕				緑色	厚胎多胎	普通	内外面ともロクロナデ。外面口縁端部と体部は格子目タタキ。亀山焼。
22	SP-301	土・皿	13.2		10.2	緑色	厚胎多胎	普通	全体にナデ。
23	SP-301	土・釜				外:緑色 内:緑色	厚胎多胎	普通	外面はロクロナデ。外面鈎以下に煤付着
24	SP-311	土・坏	10.8	3.6	4.6	緑色	厚胎	普通	厚減の為調整不明。外面底部はヘラキリ
25	SP-01	土・皿	6.5	2.0	4.5	緑色	1面下の厚胎 胎	普通	厚減の為調整不明。外面底部はヘラキリ
26	SP-02	土・碗	14.8	4.8	7.5	緑色	厚胎	普通	厚減の為調整不明。
27	SP-06	土・擦鉢			9.0	緑色	厚胎	普通	外面はナデ。内面はハケス。糸痕は6本
28	取柄付	土・皿	5.9	1.0	4.5	白緑色	厚胎	普通	
29	取柄付	土・皿	5.8	1.0	4.25	緑色	厚胎	普通	厚減の為調整不明。底部はヘラキリ。
30	取柄付	土・坏	10.5	3.0		白緑色 胎	1面下の厚胎	普通	内面はロクロナデ。
31	取柄付	須・はそう	12.8			緑色	厚胎	良好	内外面ともロクロナデ。外面口縁部は波状文。
32	取柄付	土・坏	13.0			白緑色 胎	厚胎	普通	内外面ともロクロナデ。

遺物 番号	出土遺構	器 種 名	法量 (cm)			色 調	胎 土	焼 成	調整・手法上の特徴・備考
			口 径	器 高	底 径				
33	1103号	須・環			9.2	黒色	黒	良好	内外面ともロクロナデ。
34	1103号	須・提瓶	5.7			黒色	黒褐色	良好	内外面ともロクロナデ。口縁部内面と外面体部に炭緑色自然軸付着。
35	115D	土・土釜				B: 黒褐色 A: 黒色	黒褐色粘土	普通	外面はロクロナデ。外面胴以下は糠付着
36	SP-211	弥・高环脚			10.8	黒色	2m以下粘土	普通	摩滅の為調整不明。
37	SP-247	土・皿	5.8	0.9	5.1	黒色	3m以下粘土	普通	摩滅の為調整不明。底部は時計回りのヘラキリ。
38	SP-204	土・皿	5.8	1.3	4.5	黒色-黒褐色	2m以下粘土	良好	内外面ともナデ。底部は時計回りのヘラキリ。
40	1102号遺構	土・皿	6.8	1.3	4.9	黒色	1m以下粘土	普通	摩滅の為調整不明。底部はヘラキリ。
41	1102号遺構	土・皿	7.4	1.2	5.4	白褐色	黒褐色粘土	普通	摩滅の為調整不明。
42	1102号遺構	土・環	11.9	3.05	7.5	白褐色	黒褐色粘土	普通	内外面共ナデ。底部はヘラキリ。
43	1102号遺構	円筒埴輪				黒色	2m以下粘土と粘 土	普通	摩滅の為調整不明。
44	1102号遺構	円筒埴輪				黒色	2m以下粘土と粘 土	普通	一次調整のハケメ有。
45	1102号遺構	円筒埴輪				黒色	2m以下粘土と粘 土	普通	摩滅の為調整不明。
46	1102号遺構	円筒埴輪				黒色	2m以下粘土と粘 土	普通	
47	1102号遺構	円筒埴輪				黒色	2m以下粘土と粘 土	普通	摩滅の為調整不明。
48	1102号遺構	円筒埴輪				黒色	2m以下粘土と粘 土	普通	円形穿孔有。

遺物 番号	出土遺構	器 種 名	法 量 (cm)			色 調	胎 土	焼 成	調整・手法上の特徴・備考
			口 径	器 高	底 径				
49	順29埋蔵	円筒埴輪				艶	2m以下焼結と艶 結合	普通	摩滅の為調整不明。
50	順29埋蔵	円筒埴輪				艶	2m以下焼結と艶 結合	普通	一次調整のハケメ有。
51	順29埋蔵	円筒埴輪				艶	2m以下焼結と艶 結合	普通	摩滅の為調整不明。
52	順29埋蔵	円筒埴輪				艶	2m以下焼結と艶 結合	普通	一次調整のハケメ有。
54	順39埋・控	須・坏蓋	13.5	4.2		灰色	艶結合	良好	内外面ともロクロナデ。
55	順39埋・控	須・坏蓋	13.2	3.6		灰色	艶結合	良好	内外面ともロクロナデ。外面天井部はヘラケズリするが、中央部分にヘラ切り痕が残る。ロクロ回転方向は時計回り。
56	順39埋・控	須・坏蓋	15.2	3.7		灰色	艶結合	良好	内外面ともロクロナデ。外面天井部はヘラケズリ。
57	順39埋・控	須・坏蓋	14.3			白褐色	艶結合	やや不良	内外面ともロクロナデ。
58	順39埋・控	須・坏蓋	14.3	4.1		灰色	艶結合	良好	内外面ともロクロナデ。外面天井部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。
59	順39埋・控	須・坏身	12.1	3.4		灰色	艶結合	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。
60	順39埋・控	須・坏身	12.0			明灰色	艶結合	普通	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。
61	順39埋・控	須・坏身	12.3			灰色	艶結合	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。
62	順39埋・控	須・坏身	12.4	3.4		灰色	艶結合	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。
63	順39埋・控	須・坏身	12.3	5.0		灰白色	艶結合	やや不良	内外面ともロクロナデ。内面底部は仕上げナデ。外面底部はヘラキリ。

遺物 番号	出土遺構	器 種 名	法量 (cm)			色 調	胎 土	焼 成	調整・手法上の特徴・備考
			口 径	器 高	底 径				
64	期30墳・竪	須・坏身	12.2	3.9		灰色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。
65	期30墳・竪	須・坏身	12.6	3.7		灰色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。
66	期30墳・竪	須・坏身	13.0	4.0		灰色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。
67	期30墳・竪	須・坏身	13.3			灰白色	割削胎	やや不良	内外面ともロクロナデ。
68	期30墳・竪	須・壺蓋	9.9	3.5		灰色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。外面天井部はヘラケズリ。
69	期30墳・竪	須・壺蓋	9.4	2.9		淡灰色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。外面天井部はヘラケズリし、中心部はヘラキリが残るロクロ回転方向は逆時計回り。
70	期30墳・竪	須・壺	5.1	8.9	1.9	暗灰色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転は時計回り。口縁部から体部上半に淡緑色の自然釉付着。
71	期30墳・竪	須・短頸壺	3.75	7.4	2.9	灰色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。口縁部から体部上半に緑色の自然釉付着。
72	期30墳・竪	須・高坏 脚部			8.1	灰褐色	割削胎	普通	内外面ともロクロナデ。
73	期30墳・竪	須・高坏	13.2			灰紫色	割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。坏部内面底部は仕上げナデ。
74	期30墳・竪	須・高坏	12.75	8.1	8.6	灰緑色～灰 藍色	割削胎	やや不良	内外面ともロクロナデ。坏部内面底部は仕上げナデ。
75	期30墳・竪	須・高坏	13.2			灰紫色	1面下割削胎	良好	内外面ともロクロナデ。坏部内面底部は仕上げナデ。
76	期30墳・竪 甕	須・高坏	12.3	15.3	13.2	灰色	1面下割削胎	良好	全体にロクロナデ。坏部内面底部は仕上げナデ。脚部に2段2ヶ所の透孔有。上段は碗状、下段は台形。

遺物 番号	出土遺構	器種名	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	調整・手法上の特徴・備考
			口径	器高	底径				
77	昭和39年・経	須・はそう				灰色	胎土	良好	内外面ともロクロナデ。
78	昭和39年・経 経	須・長頸 甕				灰色	胎土	良好	内外面ともロクロナデ。外面体部下半はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り
79	昭和39年・経	須・平腹	8.2	14.8		灰紫色	胎土	良好	内外面ともロクロナデ。外面底部は静止ヘラケズリ。
80	昭和39年・経	須・提梁				灰色	1mm以下胎土	良好	体部前面はロクロナデ、背面はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。内面はロクロナデ。
81	昭和39年・経	須・甕	46.8						外面口縁部は3段の刻み目斜線文。体部は格子目タタキ、内面口縁部はロクロナデ、体部は青海波文。
82	昭和39年・経	土・皿	9.1	1.3	6.9	黄褐色	1mm以下胎土	普通	摩滅の為調整不明。
83	昭和39年	陶・皿	10.6	1.7	7.4	外:黄褐色 内:緑色	胎土	良好	全体に施釉。口縁部は口先け。
84	昭和39年・経	土・杯	10.4	3.6	7.5	緑色	1mm以下胎土	普通	内外面ともナデ。内面底部は仕上げナデ。外面底部は放射状のヘラキリ。
85	昭和39年・経	瓦器・碗	15.2			黄褐色	胎土	普通	内面はナデのち暗文。外面口縁部はナデ。体部は指押さえ。
86	昭和39年・経	土・杯	12.6	3.6	6.8	黄褐色	胎土	普通	内外面ともナデ。底部はヘラキリの後ナデ。
87	昭和39年・経	土・杯	13.2	4.7	6.8	白褐色	1mm以下胎土	普通	内外面ともナデ。内面底部は仕上げナデ。外面底部はヘラキリの後ナデ。
88	昭和39年・経	瓦器・碗				黄褐色	胎土	普通	内面は暗文。外面底部はナデ。
89	昭和39年・経	土・甕				黄褐色	2mm以下胎土	普通	
90	昭和39年	陶器・碗			4.4	外:黄褐色 内:緑色	胎土	良好	内面に砂目2ヶ所。

遺物 番号	出土遺構	器種名	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	調整・手法上の特徴・備考
			口径	器高	底径				
91	期3号棟・礎	須・壺			10.0	褐色	黒	普通	内外面ともロクロナデ。
92	期3号棟	土・甕				黒褐色	1面下の緑褐色	普通	内外面ともナデ。
93	期3号棟・竪	土・土釜	22.4			褐色～黒色	3面下の緑褐色	普通	内面はナデ。外面に煤、内面に有機物付着。
94	期3号棟・竪 礎	土・片口 鉢				緑色	2面下の緑褐色	普通	内面に6条の状痕13ヶ所。
163	期3号棟・堀	土・杯	14.2	3.9		黄褐色 赤・黒褐色	2面下の緑褐色	普通	外面口縁部付近にロクロナデが認められるが、全体に摩滅。
164	期3号棟・堀	須・杯蓋			13.5	黄褐色 赤・灰色	黒褐色	良好	内外面ともロクロナデ。
165	期3号棟・堀	須・壺	9.8			褐色	黒褐色	良好	内外面ともロクロナデ。
166	期3号棟・堀	須・高杯脚			10.2	褐色	黒褐色	良好	内外面ともロクロナデ。洗滌で区切られた上段に線刻状の透かし2ヶ所。
167	期3号棟・堀	須・提瓶				灰色	黒	良好	口縁部内外面はロクロナデ、外面体部はタタキの後縦方向のナデ。内面は青褐色文。
168	期3号棟・堀	須・甕	15.8			褐色	2面下の緑褐色	良好	口縁部内外面はロクロナデ、外面体部は平行タタキ。内面は青褐色文。
169	期3号棟・堀丘		15.9			黒褐色	2面下の緑褐色	普通	内面はナデ。外面は摩滅
170	期3号棟・堀丘	赤・壺	12.9			黒褐色	1面下の緑・赤 褐色	普通	口縁部に3条の凹線文。内面はナデ。全体に摩滅。
171	期3号棟・堀跡	須・杯蓋	13.2			灰色	1面下の緑褐色	良好	内外面ともロクロナデ。
172	期3号棟・堀跡	土・小皿	5.75	1.05	4.8	黒褐色	黒褐色	普通	全体に摩滅。外面底部はヘラキリ。
173	期3号棟・堀丘	輪胎陶器				黄・黒色 赤・灰色	黒	黒	輪は高台内面以外全体に施釉。

遺物 番号	出土遺構	器 種 名	法 量 (cm)			色 調	胎 土	焼 成	調整・手法上の特徴・備考
			口 径	器 高	底 径				
174	明石3号・塚石遺	白磁・四重 耳			8.0	黄:白 黒:白磁	黒	良好	施釉は高台以外内外面。高台内側はケズリ。
175	明石3号	須・坏身				灰	黄褐色	良好	全体にロクロナデ。
176	明石土器下	須・こね鉢	25.6			灰	黄褐色	良好	外面上半と内面はロクロナデ。端部外面に重ね焼きの痕跡。
177	取	土・小皿	5.9	1.1	5.1	黄 黒:黄	黄褐色	普通	摩滅のため不明。外面底部はヘラキリ。
178	取	輪胎陶器 ・輪			4.4	黄:黄 黒:黄	黒	良好	内面に蛇の目輪割ぎ。
187	遺跡	須・坏蓋	14.3	4.5		灰	2mm以下黄褐色	良好	全体にロクロナデ。外面天井部はヘラケズリ。中心部はヘラキリ。
188	遺跡	須・坏蓋	14.6	4.7		灰	1mm以下黄褐色	良好	全体にロクロナデ。外面天井部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は逆時計回り。
189	遺跡	須・坏身	12.4	4.5		灰	1mm以下黄褐色	良好	全体にロクロナデ。内面底部にタタキが残る。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は逆時計回り。
190	遺跡	須・坏身	12.8	4.7		灰	1mm以下黄褐色	良好	全体にロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は逆時計回り。
191	下段遺	須・坏蓋	14.6	4.5		灰	黒	良好	全体にロクロナデ。外面天井部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は逆時計回り。
192	下段遺	須・坏身	13.1	4.0		灰	2mm以下黄褐色	良好	全体にロクロナデ。内面底部はタタキが残る。外面底部はヘラケズリ。ロクロ回転方向は時計回り。
193	下段遺	須・はそう	12.4	14.0		灰	1mm以下黄褐色	良好	内面と外面口縁部はロクロナデ。外面頸部はカキス。外面体部上半はロクロナデ下半はヘラケズリ。



遺物 番号	出土遺構	器 種 名	法 量 (cm)			色 調	胎 土	焼 成	調整・手法上の特徴・備考
			口 径	器 高	底 径				
194	下土層	須・壺	15.9	21.2		灰-緑緑	上面下0%焼	良好	口縁部内外面ともロクロナデ。体部外面はタタキの後横方向のナデ、内面は青黄波文。
195		須・坏蓋	14.6	4.5		灰	焼	良好	全体にロクロナデ。外面天井部はヘラケズリ。ロクロナデ方向は逆時計回り。
196		須・坏身	12.7	4.9		灰	焼	良好	全体にロクロナデ。外面底部はヘラケズリ。ロクロナデ方向は逆時計回り。外面に鉄分付着。
197		須・壺	11.1	14.9		灰	焼	良好	全体にロクロナデ。外面体部下半は平行タタキ。内面口縁部と外面口縁部から体部にかけて緑色の自然釉付着。内面底部に小粘土塊3個付着。
198	期2層	須・壺	14.9	20.3		灰	焼	良好	外面口縁部は2段の瓣掻波状文。体部上半はタタキ、最大径付近に列点文と瓣掻波状文、下半にタタキを施した後、ロクロナデで消す。内面口縁部はロクロナデ、体部はタタキの後、ロクロナデで消す





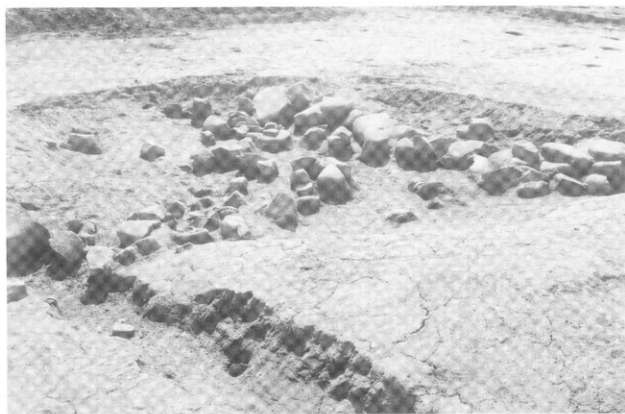
第1図 I区遺構検出状況(東方向から)



第2図 I区SD-105検出状況(東方向から)



第1図 I区SD-105検出状況（南西方向から）



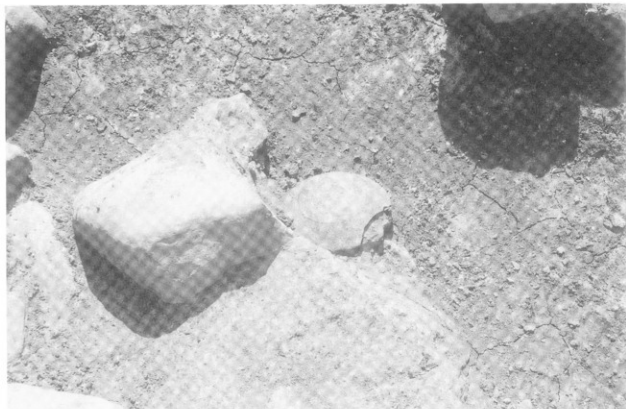
第2図 I区SD-105検出状況近景（東方向から）



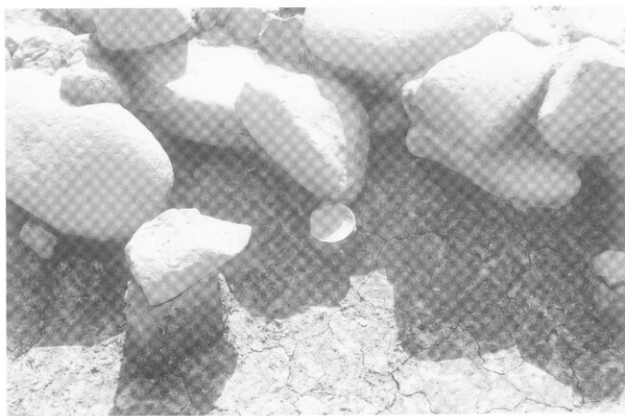
第1図 I区SD-105検出状況近景（東方向から）



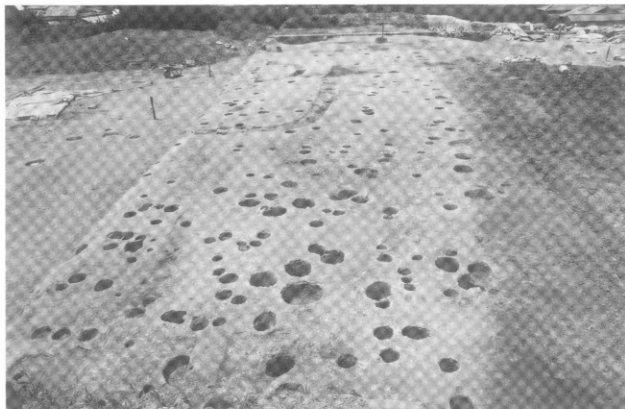
第2図 I区SD-105内遺物出土状況（南方向から）



第1図 I区SD-105内遺物出土状況（東方向から）



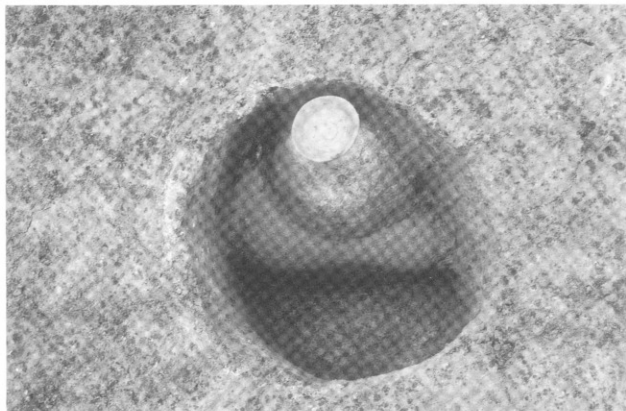
第2図 I区SD-105内遺物出土状況（東方向から）



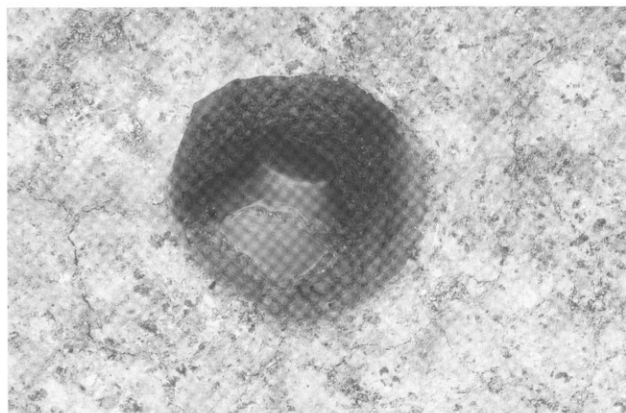
第1図 II区上層遺構検出状況（東方向から）



第2図 II区下層遺構検出状況（東方向から）



第1図 II区SP-01内遺物出土状況（西方向から）



第2図 II区SP-02内遺物出土状況（西方向から）

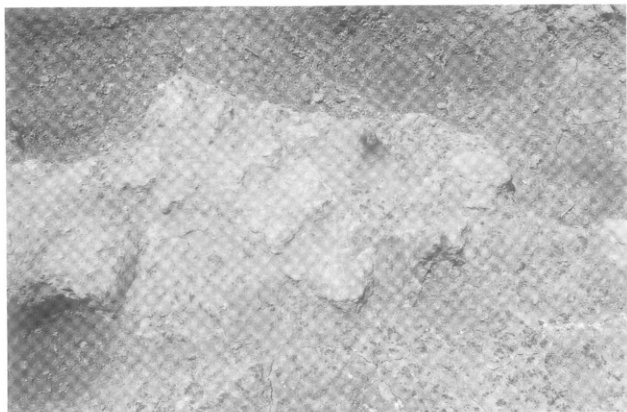




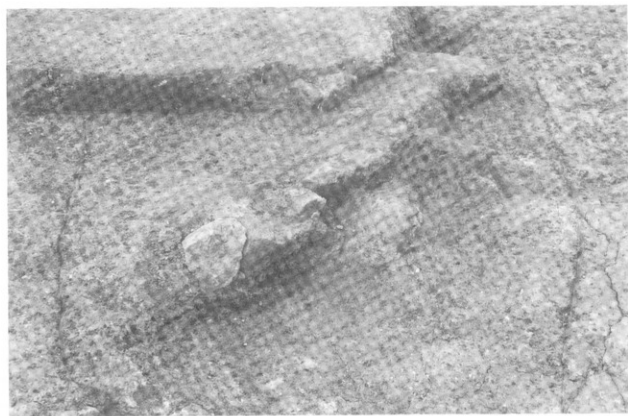
第1図 町代2号墳周濠内円筒埴輪出土状況（北方向から）



第2図 町代2号墳周濠内鉄製品出土状況（東方向から）



第1図 II区上層遺構SD-01焼土塊検出状況（南方向から）



第2図 II区上層遺構SD-01焼土塊検出状況（南方向から）



第1図 町代3号墳石室全景（西方向から）



第2図 町代3号墳石室近景（西方向から）



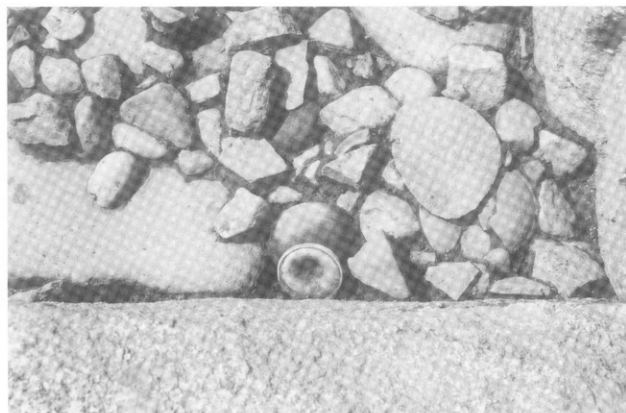
第1図 町代3号墳玄室上層礫床検出状況（西方向から）



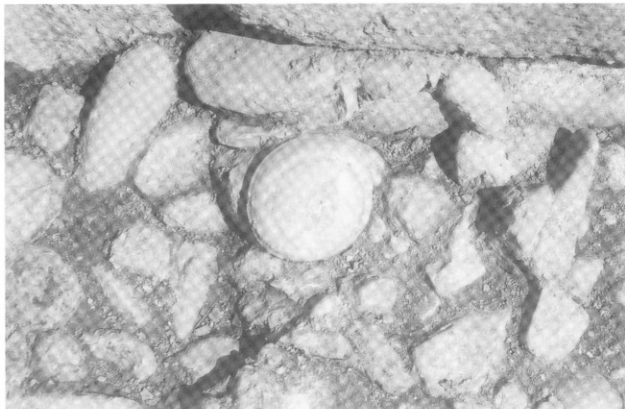
第2図 町代3号墳玄室中層礫床検出状況（西方向から）



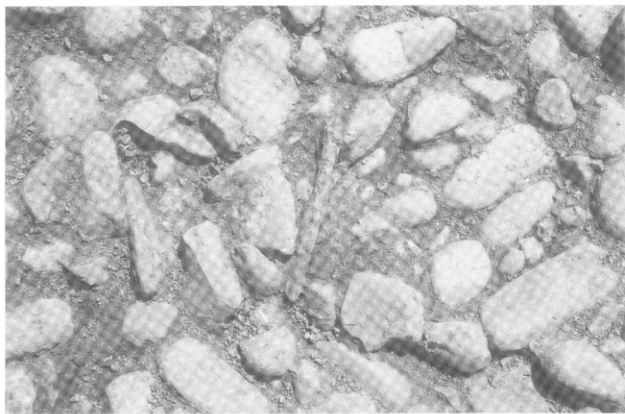
第1図 町代3号墳下層礫床検出状況（西方向から）



第2図 町代3号墳上層礫層中遺物出土状況（南方向から）



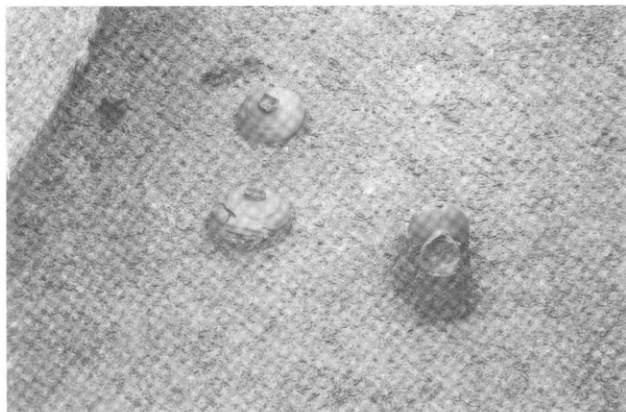
第1図 町代3号墳上層礫層中遺物出土状況（南方向から）



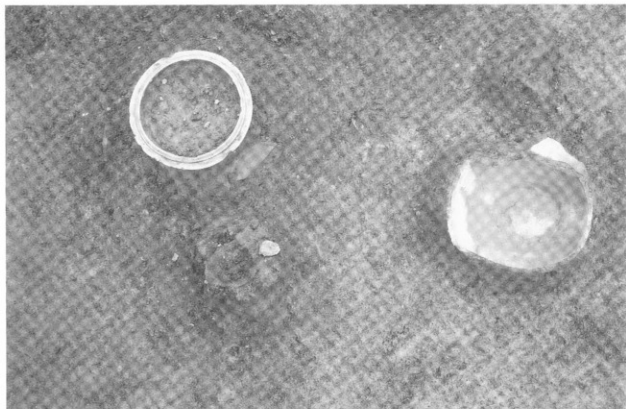
第2図 町代3号墳下層礫層中遺物出土状況（南方向から）



第1図 町代3号墳下層礫層中遺物出土状況（南方向から）



第2図 町代3号墳羨道遺物出土状況（南方向から）



第1図 町代3号墳羨道遺物出土状況（東方向から）



第2図 町代3号墳周濠土層断面（西方向から）





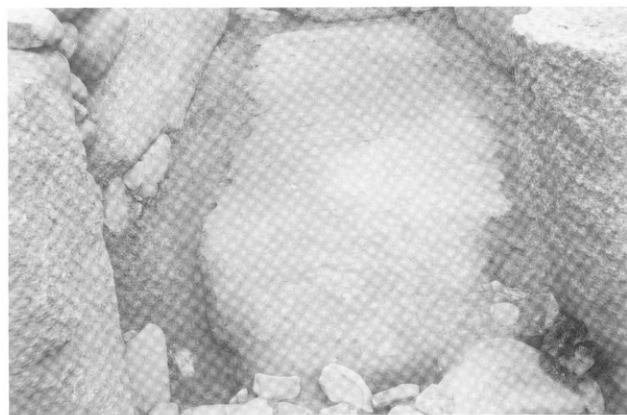
第1図 町代3号墳境石検出状況（西方向から）



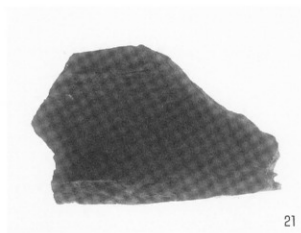
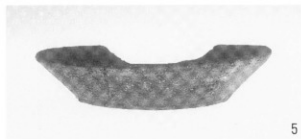
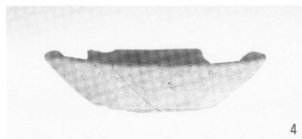
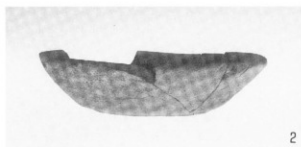
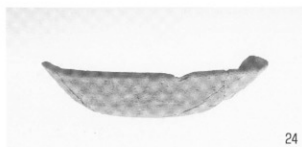
第2図 町代3号墳境石除去後検出状況（真上から）



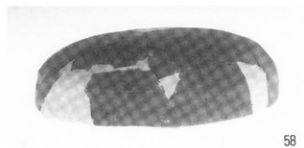
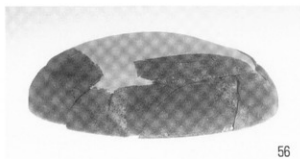
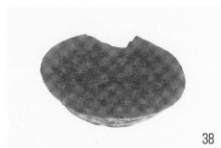
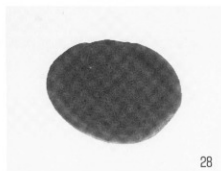
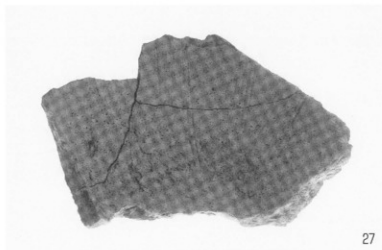
第1図 町代3号墳羨道から玄室（西方向から）



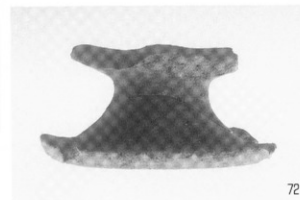
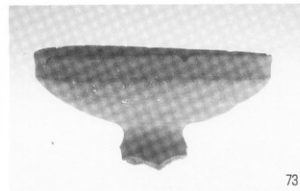
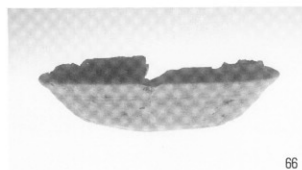
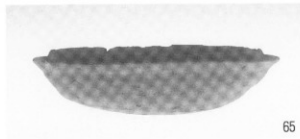
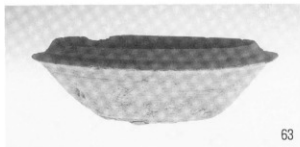
第2図 町代3号墳玄室完掘状況（西方向から）



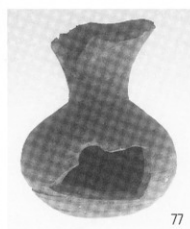
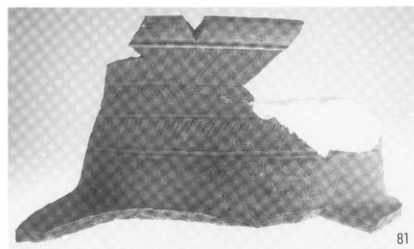
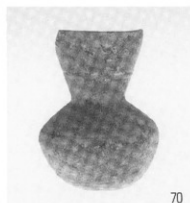
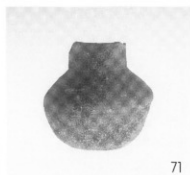
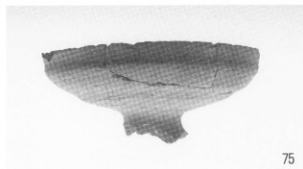
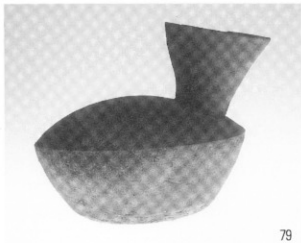
I区溝内出土・II区上層柱穴内出土遺物



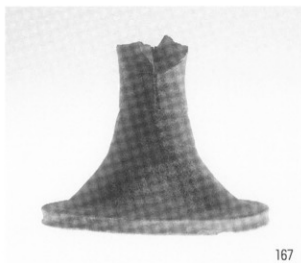
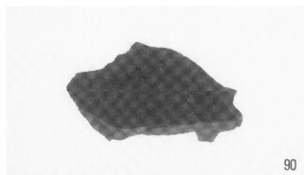
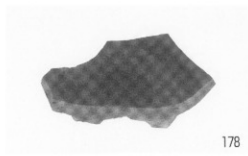
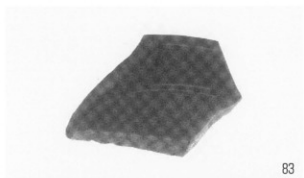
Ⅱ区内上层柱穴·Ⅱ区包含层·Ⅱ区下层柱穴·町代3号填出土遺物



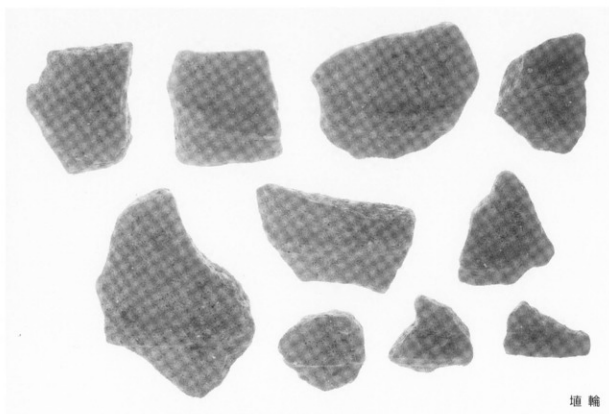
町代3号墳出土遺物



町代3号墳出土遺物

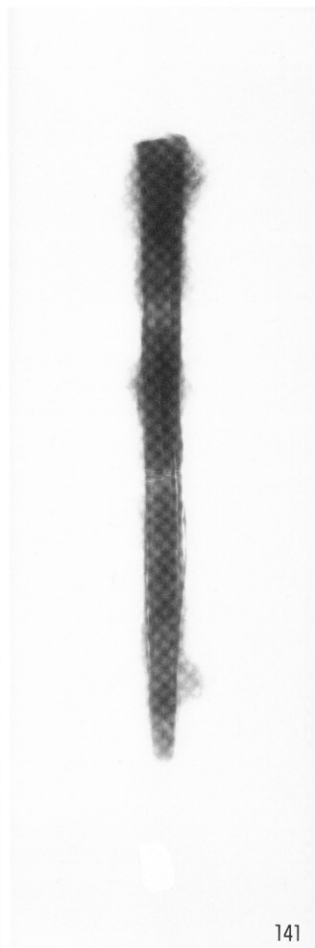


町代3号墳・町代3号墳周辺出土遺物



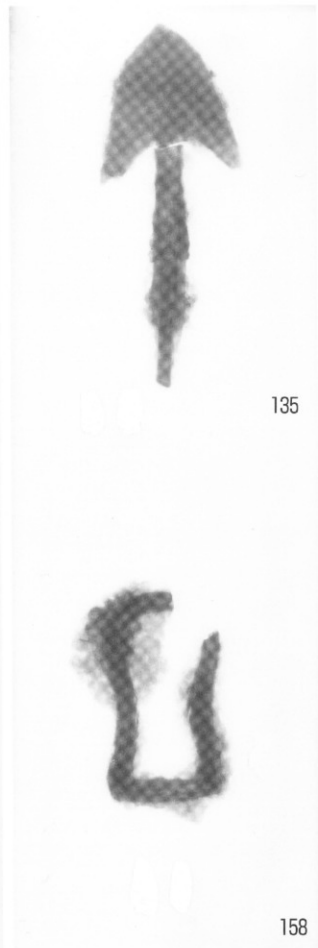
町代3号墳・町代2号墳周濠内出土遺物







町代3号墳出土鉄製品X線写真



町代3号墳出土遺物X線写真



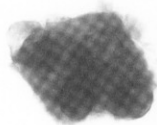
147



151



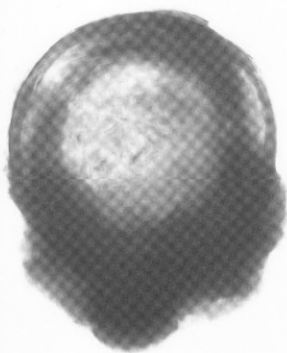
152



157



148



161